

ActiveImage ProtectorTM Virtualとは 仮想化基盤に最適化されたバックアップソリューション

ActiveImage ProtectorTM 2022 Virtual は、エージェントベースおよびエージェントレスの両方式に対応し、仮想環境の構成やポリシーに応じた最適なバックアップソリューションです。仮想マシン単位で効率的に保護できるため、システム台数が増加する環境でも管理を煩雑化させません。さらに、バックアップから異なるハイパーバイザー環境へ復元できるため、仮想基盤の刷新や統合、災害対策サイトへの移行など、幅広く活用できます。

運用負荷の軽減

エージェントレス方式にも対応しており、仮想マシンごとのバックアップをホスト側（HyperAgentTM）から一元管理できるため、個別管理の手間を簡素化できます。

柔軟な復元

バックアップから元の仮想マシンへの復元はもちろん、新規仮想マシンや異なるハイパーバイザー上の仮想マシンへの復元（V2V）にも対応しています。

容易な操作性

日本語GUIとウィザード形式の操作により、バックアップ設定や復元作業を直感的に実行できます。管理コンソールでの一元管理により、日常運用を効率化します。

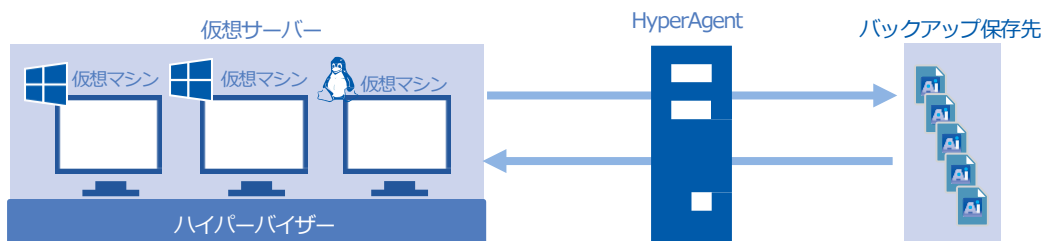
エージェントレス バックアップに対応

仮想マシンに ActiveImage ProtectorTM をインストールすることなくバックアップを実行できます。各仮想マシンごとにバックアップおよび復元が可能のため、個別のシステム障害にも迅速に対応できます。ゲストOSへの導入作業や管理負担を軽減し、仮想マシン台数が増加する環境でも効率的な運用を実現します。

エージェントレス バックアップのメリット

- ・エージェントのインストールなどが不要なため運用工数を削減
- ・仮想マシン上でエージェントが動作しないため仮想マシンの負荷軽減
- ・ゲストOSに柔軟に対応可能（Windows Server 2003から対応）

ActiveImage ProtectorのHyperAgentから仮想マシンごとにバックアップ



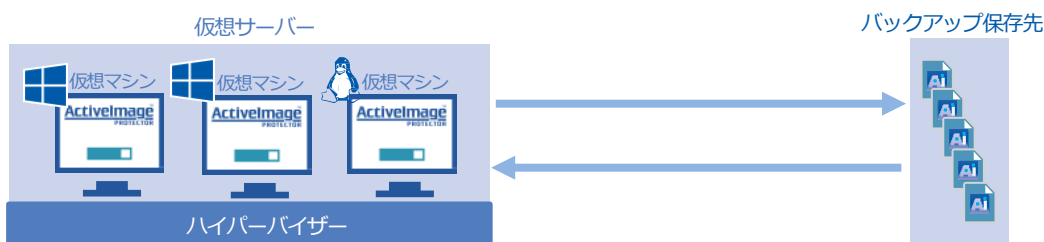
従来のエージェントベース バックアップ

仮想マシンにActiveImage ProtectorTMをインストールしてバックアップを実行する従来の方式です。各仮想マシンに導入されたエージェントから、個別にバックアップおよび復元をおこなうことができます。ゲストOS内部で動作するため、アプリケーションやサービスの整合性を確保した安定したバックアップが可能です。

エージェントベース バックアップのメリット

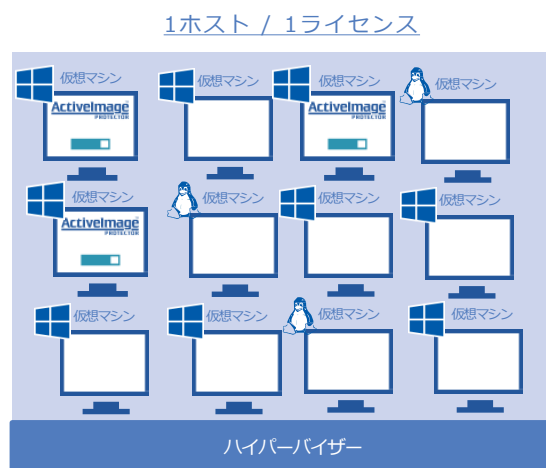
- ・物理環境と統一的なバックアップ運用が可能
 - ・仮想ホストの管理者権限は不要*
 - ・vSphereのRDMやHyper-Vのパススルーディスク構成にも対応
- *対象の仮想ホストを登録する時のみ管理者権限が必要になります。

各仮想マシンにインストールされているActiveImage Protectorからバックアップ



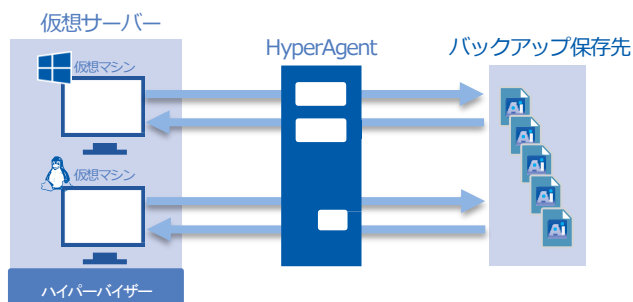
仮想ホスト単位のシンプルなライセンス

仮想ホスト単位のライセンス体系を採用しており、1ライセンスで1台の仮想ホスト上の仮想マシンを保護できます。仮想マシンの台数が増加しても追加ライセンスの負担を抑えられます。CPUコア数やソケット数の制限がないため、高性能サーバー環境でもコストを気にせず導入可能です。さらに、永続ライセンスとサブスクリプションの両方から選択でき、予算や運用方針に応じた導入を実現します。



エージェントレスで一括バックアップ／復元

エージェントレスバックアップ (HyperAgent™) により、仮想マシンへエージェントを導入することなく効率的なバックアップ／復元を実現します。Microsoft Hyper-V、VMware vSphere、Linux KVM、Proxmoxなどのハイパーバイザーに対応しています。さらに、異なる仮想基盤間での復元 (V2V) にも活用でき、仮想基盤の統合や移行まで見据えた柔軟な運用を支援します。



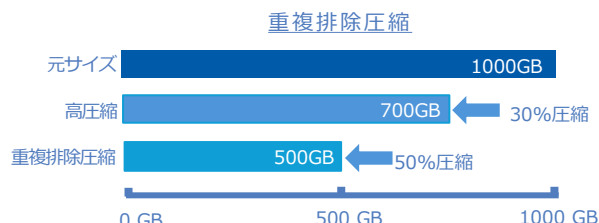
特定のファイル／フォルダーの復元

システム全体のバックアップから、必要なファイルやフォルダーだけを選択して復元できます。システム全体を戻すことなく、誤って削除・更新してしまったデータのみをピンポイントで復旧できるため、復元作業の手間を軽減し、業務への影響を最小限に抑えます。

※ クラウドストレージ上のバックアップからは、ファイル／フォルダーを直接復元できません。事前にローカルまたは共有フォルダーへダウンロードしてから復元してください。

保存容量を抑える増分・圧縮技術

増分バックアップでは、前回のバックアップから変更された部分のみを取得するため、バックアップ時間と保存容量を大幅に抑えることができます。また、重複排除圧縮により、バックアップを実行しながら同一データの重複を自動的に排除し、さらに圧縮することで、ストレージ使用量を削減します。



柔軟なスケジュールと世代管理

バックアップの実行は、運用方針に合わせて柔軟にスケジュール設定できます。単発実行に加え、週次や月次、曜日指定などの詳細な設定が可能で、フルバックアップと増分バックアップを組み合わせた効率的な運用を構築できます。世代管理機能では保持数や保存期間を設定でき、古いバックアップを自動整理することで、保存容量を適切に管理できます。

設定例：

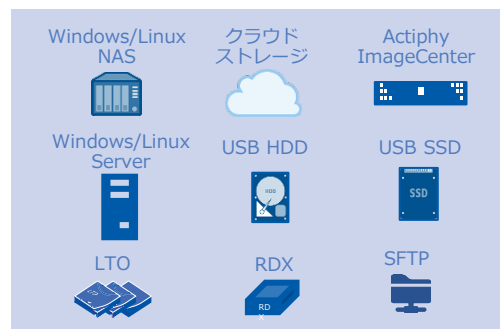
- ・毎週日曜日は、フルバックアップを実行
- ・月曜～土曜日は、1回/1日、増分バックアップを実行



多様な保存先への対応

保存先は、ローカルディスク、USBストレージ、NAS、SAN、SFTPサーバー、テープ装置、クラウドストレージなど、幅広いメディアに対応しています。システム構成やセキュリティポリシーに応じて最適な保存先を選択でき、オンプレミスとクラウドを組み合わせたバックアップ構成にも対応可能です。

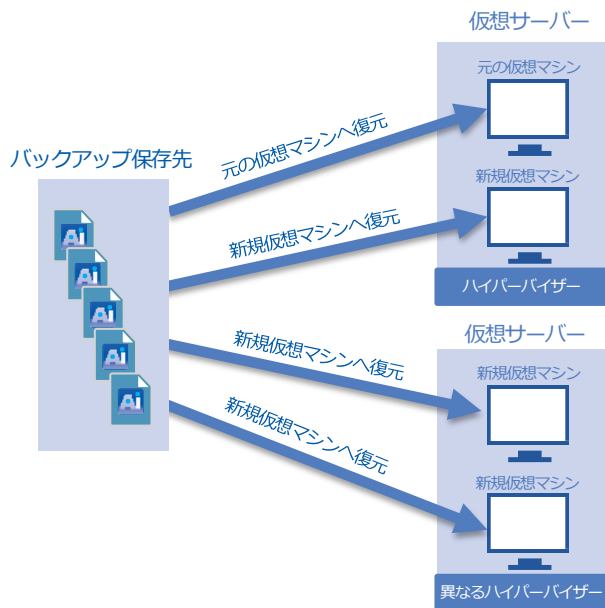
バックアップ保存先



異なる仮想基盤間での復元に対応

バックアップから元の仮想マシンへの復元はもちろん、新規仮想マシンへの復元や、異なるハイパーバイザー間での復元（V2V）にも対応しています。Microsoft Hyper-V、VMware vSphere、KVM、Proxmox など主要な仮想基盤に対応し、環境の違いを意識することなく復旧作業を実行できます。また、仮想基盤の更新や統合、DRサイトへの移行にも柔軟に活用でき、将来を見据えた戦略的なインフラ運用を支援します。

※ バックアップ元と異なるハイパーバイザー上の仮想マシンに復元する場合は、別途、ActiveImage Protector™のライセンスが必要となります。

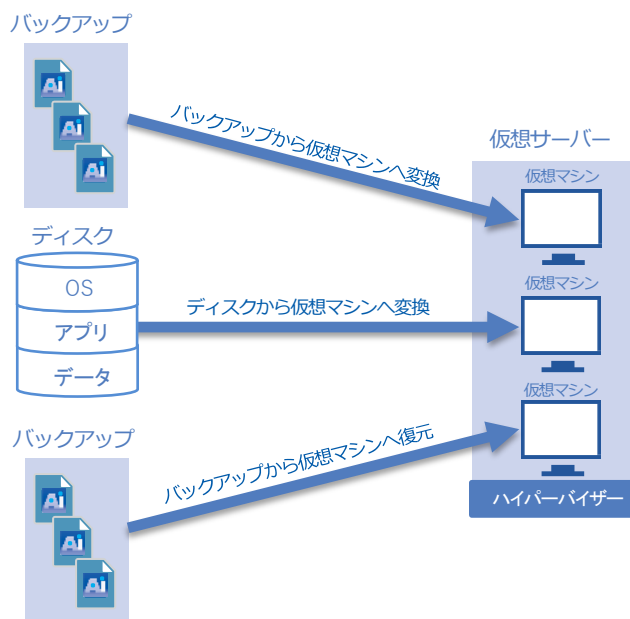


多彩な仮想環境への移行機能

ActiveImage Protector™には、多彩な移行機能が搭載されています。Microsoft Hyper-V、VMware vSphere、KVM、Proxmox などの仮想環境へ復元、または仮想変換し、仮想マシンとして起動することができます。仮想基盤の更新や統合に伴う移行作業にも柔軟に対応可能です。

- ・仮想マシンのディスクから仮想マシンへ変換
- ・バックアップから仮想マシンへ変換
- ・仮想化処理を施したバックアップから復元

※ 移行先の仮想環境には、別途、ActiveImage Protector™のライセンスが必要となります。

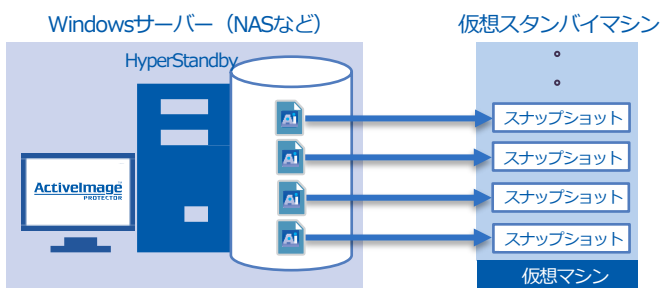


即時起動による業務継続

Microsoft Hyper-V、VMware vSphere、Linux KVM、Proxmox などの仮想環境上に、待機用の仮想マシンを事前に構成しておくスタンバイ運用にも対応しており、障害発生時には即座に切り替えて業務を継続できます。

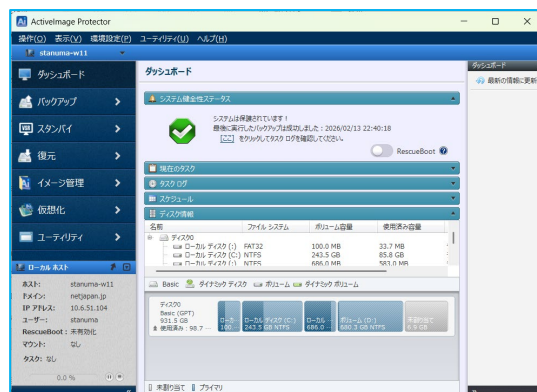
※ 仮想スタンバイマシン作成先の仮想環境には、別途、ActiveImage Protector™のライセンスが必要となります。

バックアップからスナップショットを作成



管理性と運用効率の向上

直感的に操作できる日本語GUIにより、初めての方でも迷わず利用できます。システムの健全性チェックやバックアップ／復元タスク、スケジュールは管理コンソールで一元管理が可能です。設定や復元はウィザード形式で進められるため、専門知識がなくても容易に運用できます。さらに、リモート管理機能により、複数拠点・複数の管理対象マシンをまとめて効率的に管理し、運用負荷を軽減します。





株式会社 アクティブアイ 〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町8番 NCO神田紺屋町
TEL : 03-5256-0877 FAX : 03-5256-0878 <https://www.actiphy.com> sales@actiphy.com

© 2026 Actiphy, Inc. All rights reserved. ActiveImage Protector, vStandby, Actiphy ImageCenter, HyperBoot, ReZoom It!, BootCheck, ActiveVisor, RescueBoot, HyperAgentは、株式会社 アクティブアイの商標です。
Microsoft、Windows、Windowsロゴは、米国および諸外国におけるMicrosoft Corporationの商標または登録商標です。その他のブランド名および製品名は、それぞれ帰属する所有者の商標または登録商標です。